

産業連関表によるスカイラインチャート分析

平成 23 年の愛知県スカイラインチャートを使って愛知県の産業部門ごとの移輸出、移輸入等への依存の概況をみてみます。

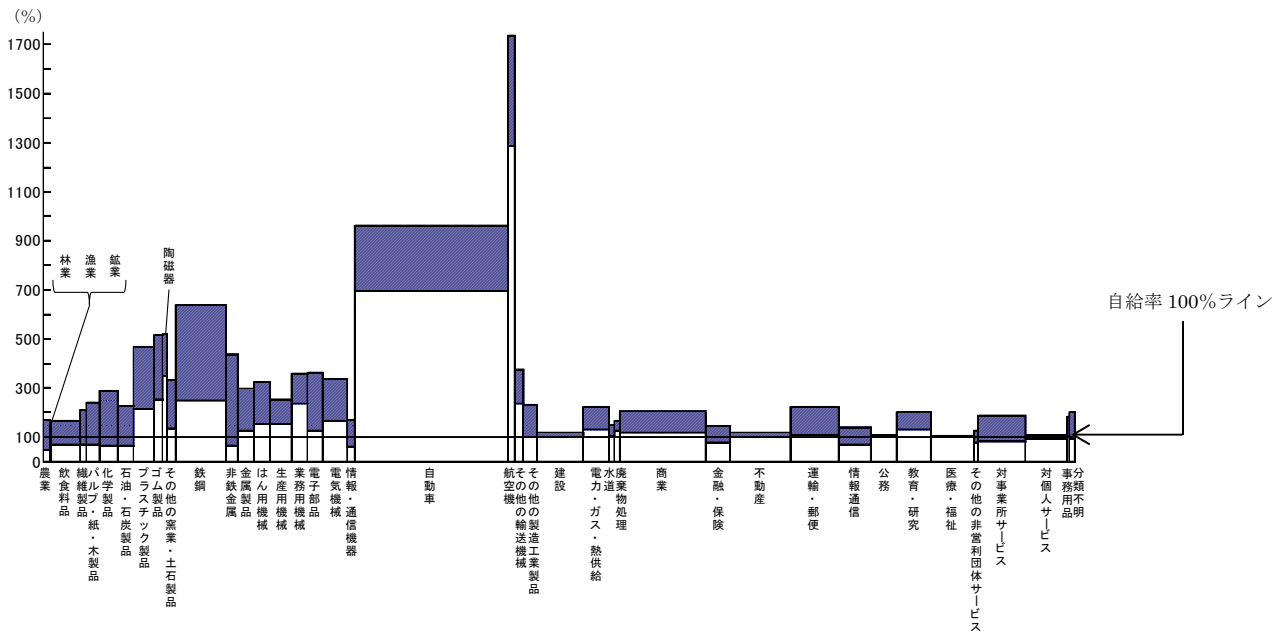
第一次産業の生産額シェアが非常に低く、特に林業、漁業についてはほとんどグラフが見えなくなっています。また、第一次産業の自給率は一番高い農業でも約 4 割にとどまり、県内の需要を満たすだけの生産がなされていません。

続いて第二次産業をみると、生産額シェアは約 5 割で第三次産業とほぼ同等であり、そのうち 3 割以上を自動車占めています。一方、本県の伝統的な地場産業である繊維や陶磁器はシェアが他の製造業の部門に比べても低くなっており、繊維については自給率も 100%を下回っています。

本県の主要産業である自動車と、今後の発展が期待される航空機を比較すると、自動車の横幅が圧倒的に広く、全国で 2 割以上のシェアを握る航空機といえども、その規模は本県においては大きくありません。一方グラフの高さをみると、航空機の方が遙かに高く、部品供給が中心で、外需に大きく依存した構造がみてとれます。以上のことから現状の航空機は生産額や需要の安定性において自動車と大きな差があり、本県の将来の基幹産業として今後のさらなる発展が期待されます。

第三次産業をみると、商業のシェアが最も高く、次いで不動産、運輸・郵便となっています。自給率は概ね 100%となっており、移輸出による生産は比較的小さくなっていますが、電力・ガス・熱供給や運輸・郵便など製造業製品等の移輸出に伴う波及効果を受ける部門では比較的高くなっています。

図1 平成 23 年愛知県スカイラインチャート(43 部門)



(注) 第一次産業…農業～漁業 第二次産業…鉱業～建設、事務用品 第三次産業…電力・ガス・熱供給～対個人サービス、分類不明とする。

<参考>

(1) スカイラインチャートとは

スカイラインチャートは、県内の最終需要を満たすために、県内でどの程度の生産が行われ、他方移輸入に依存しているか、そして県内からどの程度移輸出されているかについて、産業部門別の概観を1枚のビジュアルで観察することができるようにしたもので、県内最終需要、移輸出、移輸入が、各産業に対して与える直接・間接の波及効果（生産誘発額）を測定してグラフ化したものです。

(2) スカイラインチャートの見方

※スカイラインチャートにおける数値は生産誘発額を元に計算されているため産業連関表の用語とは異なる意味を持ちます。

例えば、100%より上にある部分は「移輸出」と表現していますが、「当該部門からの直接の移輸出分」と「他部門の移輸出品の生産に必要な当該部門の生産波及」が含まれており、産業連関表の「移輸出」とは意味が異なります。

○グラフの横幅の見方

県内生産額の産業別シェアを示しています。横幅が広がるほど生産額が高いと言えます。

○グラフの高さの見方

ア 100%のラインは県内最終需要によって誘発された生産額（＝県内需要）を示します。

仮に、移輸出、移輸入がなく、その地域内全ての需要がその地域内の生産でまかなわれ、逆にその地域内の生産が全てその地域内で消費されていれば（＝自給率100%ならば）、スカイラインチャートは全産業で100%つまり、100%の横線だけとなります。

これは景気が外需に一切左右されない、理想的な自立した地域となります。

イ 全体の高さは、県内需要を100%とした、相対的な総需要（県内需要＋移輸出）の大きさを示します。

全体の高さが高いほど、移輸出の割合（及びその生産誘発額）が大きいことを示します。

ウ 網掛け部分は、総需要のうち移輸入でまかなわれる部分を示します（移輸入の分＝総需要をまかなうべき県内生産が抑制された分）。

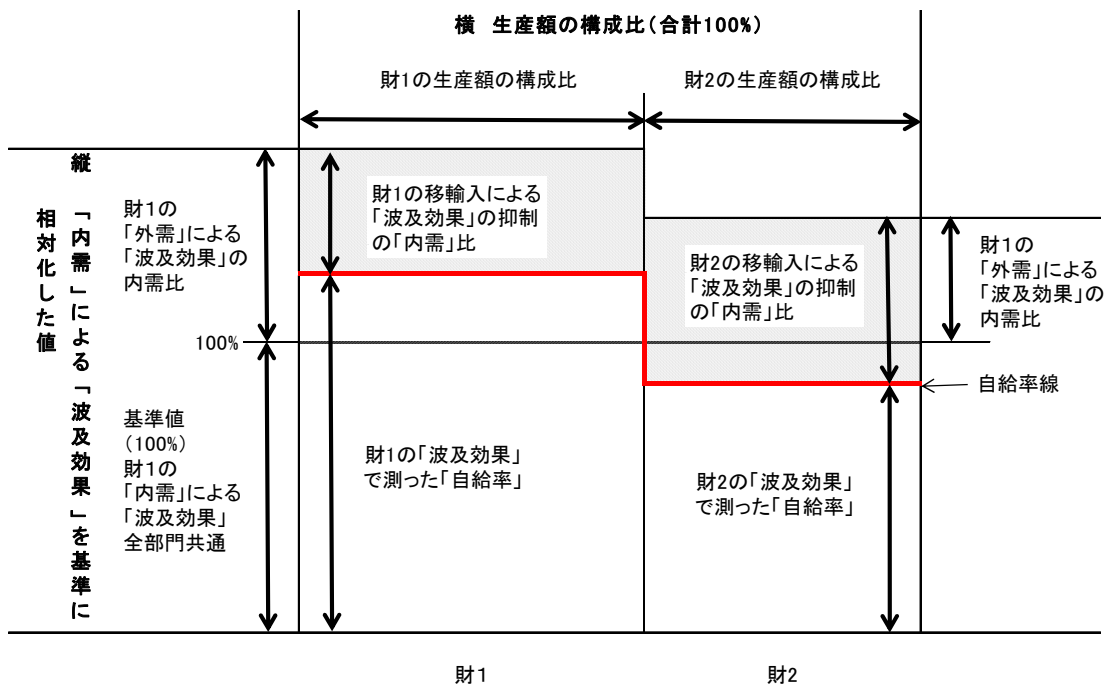
エ 白い部分（＝全体－網掛け部分）は、県内総需要から移輸入を引いたものです。

オ 100%ラインと白い部分の差は、県内需要を県内生産でまかなえるか否か（自給率が100%か否か）、移輸出差移輸入差を示します。

具体的な例として、1ページ目の図1の鉄鋼と非鉄金属をみてみます。

- ・ 横幅は鉄鋼の方が非鉄金属より広く、生産額は鉄鋼の方が大きい。
- ・ グラフの高さでは、白い部分は鉄鋼が100%を超えているので、移輸出超。非鉄金属は100%以下なので移輸入超。
- ・ グラフの高さは鉄鋼が上位3番目、非鉄金属は上位7番目で、どちらの産業も移輸出に対して高い生産誘発依存度を示しています。

図2 スカイラインチャートの見方



(注) ここで言う自給率は産業連関表の自給率とは異なる。ここでは県内最終需要を満たすために必要な生産額に対し、県内生産額がどの程度あるかという意味。